

製品名: MYLIP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14314**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	MYLIP
別名	MYLIP; BZF1; IDOL; BM-023; PP5242; E3 ubiquitin-protein ligase MYLIP; Inducible degrader of the LDL-receptor; Idol; Myosin regulatory light chain interacting protein; MIR
遺伝子 ID	29116.0
SwissProt ID	Q8WY64
免疫原	抗血清はヒト MYLIP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

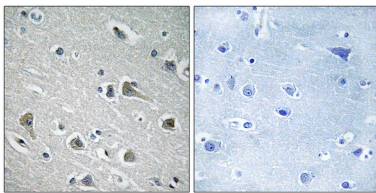
背景

ERM タンパク質ファミリーのメンバーであるエズリン、ラディキシン、モエシンは、細胞表面でアクチンを膜結合タンパク質に結合

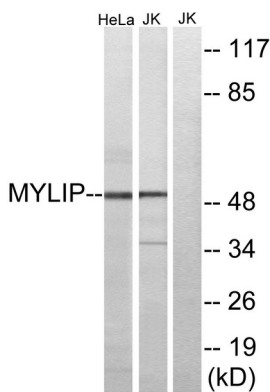
させる細胞骨格エフェクタータンパク質です。ミオシン調節軽鎖相互作用タンパク質 (MYLIP) は、ミオシン調節軽鎖と相互作用し、神経突起伸展を阻害する新規ERM様タンパク質です。[RefSeq提供、2008年7月]、発生段階：胎児組織で発現し、胎盤および胎児肺でより高いレベルが検出されました。、ドメイン：RINGドメインはユビキチン化と神経突起伸展阻害活性を媒介します。、機能：ミオシン調節軽鎖 (MRLC) のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介するE3ユビキチンタンパク質リガーゼ。MIRの安定的または一過性の過剰発現は、MRLCのプロテアソーム分解を誘導し、NGF存在下で神経突起伸展を阻害する。MIRは、MIR相互作用サボシン様タンパク質 (MSAP/TMEM4) によるMRLCの安定化を阻害し、MSAP刺激による神経突起伸展を抑制します。、経路：タンパク質修飾；タンパク質ユビキチン化。、PTM：自己ユビキチン化。、類似性：1つのFERMドメインを含む。、類似性：1つのRING型ジンクフィンガーを含む。、サブユニット：ミオシン調節軽鎖 (MRLC) およびTMEM4と相互作用する。、組織特異性：普遍的に発現する。、

研究分野

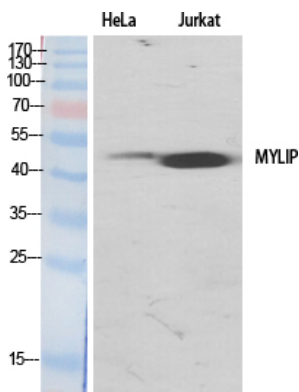
画像データ



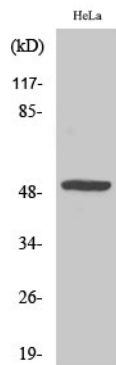
MYLIP抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MYLIP抗体を用いたHeLa細胞およびJurkat細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



MYLIPポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



MYLIP ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析